

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：32823

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2021

課題番号：20K19144

研究課題名（和文）宿泊型産後ケア施設において助産師が行う産後うつ予防を含む心理的ケアの分析

研究課題名（英文）Analysis of psychological care including prevention of postpartum depression performed by midwives in an accommodation-type postpartum care facility

研究代表者

桑原 さやか（kuwahara, sayaka）

東京医療学院大学・保健医療学部・助教

研究者番号：70866376

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 500,000円

研究成果の概要（和文）：宿泊型産後ケア施設において助産師が行う産後うつ予防を含む心理的ケアを明確にすることを目的とした。7名の助産師から同意が得られ、アンケート調査と半構造化インタビューを実施した。質的帰納的分析の結果、心理的ケアとして【個人を尊重し包容力で受け止め認める】、【身体に触れ心身の回復と休息を促す】、【聞き出そうとせず待ちケアを通して傾聴する】、【分娩の振り返りをする】、【家族を含めニーズに応じた育児相談や指導を行う】、【実母や夫との関わりについて伝える】、【計画的に継続・連携支援をする】7つのカテゴリーが抽出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

産後ケア事業は開始から間もなく、助産師が行っている心理的ケアについてはほとんど調査されていない。このため、本研究において初めて宿泊型産後ケア施設において助産師が行う産後うつ予防を含む心理的ケアを明確にした意義は大きい。普段、何気なく実施している心理的ケアを具体的に言語化したことで、今後は意図的な実践が積み重ねられ、産後うつ予防に貢献することができる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the psychological care - including psychological care for the prevention of postpartum depression - provided by midwives in residential postpartum care facilities. Seven midwives consented to participate in the study, which was conducted through questionnaires and semi-structured interviews. Qualitative inductive analysis resulted in the extraction of the following seven categories for psychological care: “accepting and acknowledging the individual with respect and receptivity”, “touching the body to promote physical and mental recovery and rest”, “waiting without trying to elicit information and listening through care”, “reviewing the delivery”, “providing parenting counseling and guidance according to the needs of the mother and family members”, “talking about the relationship with the mother’s mother and partner”, and “providing ongoing and collaborative support in a planned manner”.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：宿泊型産後ケア 産後うつ 予防 心理的ケア 助産師

1. 研究開始当初の背景

1) 本邦における産後うつが及ぼす社会的影響と心理的ケアの重要性

本邦における産後うつ病の発症率は9.0% (山縣, 2013) であり、調査開始当初の13.4% (中野, 2000) より減少傾向にあるものの未だ多い。産後うつ病は、母親自身の自殺、児童虐待、子どもの成長や発達の遅れ、夫や家族のうつ病など、社会的影響を及ぼすことが明らかにされている。対策が急務とされ、産後うつのスクリーニングや予防的支援に関する研究は年々増えている (間中, 2016)。中でも、助産師が行う継続した心理的ケアにより、母親のメンタルヘルスが回復した症例報告もあり (桑原, 2017)。産後うつ予防を含む助産師による継続した心理的ケアが重要であることがわかる。

2) 産後ケア事業における心理的ケア

産後ケア事業では、「出産後の心理的な不調や回復の遅れがあり、休養の必要がある者」、「産婦健康診査で実施したエジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS) の結果等により心理的ケアが必要と認められる者」に対し、心理的ケアを提供する (厚生労働省, 2017) とあるが、具体的かつ明確な心理的ケアの内容は明記されていない。先行研究においても、助産師は産後の母親のメンタルヘルス状況について「生活環境」と「母児の状況」に着目してアセスメントをしていることが明らかにされている (葛西, 2018) が、この結果、どのような心理的ケアを行ったのか明確にされていない。事業開始からまだ間もなく、産後ケア事業における心理的ケアに焦点をあてた学術的な研究報告はみられていない。

3) 産後ケア事業政策における産後うつ予防

本邦では、女性の社会進出、出産の高齢化、核家族化が進む中、家族が支えてきた産後ケアが激減しており、社会的な課題となっている。そこで、安心して子どもを産み育てられる環境や社会のしくみが求められ、政府は内閣府に少子化危機突破タスクフォースを設置し、緊急対策の一つとして産後ケアの強化を提言しモデル事業を提唱した (内閣府, 2013)。産後ケア事業は、産後うつ予防、母子関係の構築、母親役割獲得への支援、児童虐待予防のためにも重要な政策となっている。育児や家事を周囲の女性が支援する伝統的な文化が残っている地域では産後うつが少ないことから、産後ケアと産後うつの関連性が示唆されており (市川, 2015) 社会として産後ケアを行う体制整備が求められている。以上より、先駆的に産後ケア事業に取り組む「宿泊型産後ケア施設」において助産師が行う産後うつ予防を含む継続した心理的ケアを明らかにすることが必須であるといえる。

2. 研究の目的

「宿泊型産後ケア施設において助産師が行う産後うつ予防を含む心理的ケア」を明確にする。
本研究により、以下の成果を認める。

(1) 先駆的に産後ケア事業を実践してきた宿泊型産後ケア施設において助産師が行う「産後うつ予防を含む心理的ケア内容」が明確になる。

3. 研究の方法

1) 研究デザイン：実態調査研究デザイン

2) 研究方法 (概要)

本邦において、先駆的に産後ケア事業に取り組む東京近郊の「宿泊型産後ケア施設」11か所に研究の主旨を説明し同意を得る。施設ごとに心理的ケアの経験が豊富な研究協力者 (以下、助産師) 1名を選定していただき、インタビューガイドを用いて各60分程度の半構造的インタビューを行う。施設の方針等の偏りが生じないよう、複数施設における各施設1名の助産師を対象とする。

4. 研究成果

1) 研究協力者の選定

宿泊型産後ケア施設において助産師が行う産後うつ予防を含む心理的ケアを明確にするため先駆的に産後ケアに取り組んでいる関東近郊の14施設に研究説明文書の送付および電話にて研究協力依頼をした。7施設から同意が得られ、各施設1名ずつ計7名の助産師にアンケート調査と半構造化インタビューを実施した。

2) 研究協力者の背景

研究協力者の年齢は40代~70代であり平均年齢は、51.4(±13.45)歳、助産師経験年数は17~42年で平均26.86(±8.99)年、産後ケア従事年数は11.14(±8.73)年、心理的ケアの対応件数は平均約1000件程度であった。すべての施設で、宿泊型、アウトリーチ型、デイサービス型で産後ケアを提供していた。

3) アンケートおよび半構造化インタビューの結果

質的帰納的分析の結果、実際に行っている心理的ケアとして、【個人を尊重し包容力で受け止め認める】【身体に触れ心身の回復と休息を促す】【聞き出そうとせずに待ちケアを通して傾聴する】【分娩の振り返りをする】【家族を含めニーズに応じた育児相談や指導を行う】【実母や夫との関わりについて伝える】【計画的に継続・連携支援をする】の7つのカテゴリーが抽出された。

また、特に産後うつを予防するために意識しているケアとして、【初回のアセスメントと関わりを大切にす】【アセスメントした上で意図的に話を聞く】【受容し寄り添い認める】【分娩の振り返りをする】【否定や押し付けをしない】【個を大切にすペースを合わせて待つ】【ニーズに沿った支援をする】【落ち着いた環境で休息を促す】【夫も巻き込み自宅で可能な育児の方法を練習する】の9つのカテゴリーが抽出された。

さらに、産後うつを理解し助産師がケアできる対象か見極める力、経験から培った信頼されるコミュニケーション能力が必要であることがわかった。しかし、経験を頼りに対応していること、母親との線引き、病院とのスムーズな連携、経営との兼ね合いなどの課題も見出された。

4) 今後の展望

産後ケア事業は開始から間もなく、助産師が行っている心理的ケアについてはほとんど調査されていない。このため、本研究において初めて宿泊型産後ケア施設において助産師が行う産後うつ予防を含む心理的ケアが明確になった意義は大きい。

今後は、産後ケアにおける産後うつ予防を意図した助産師教育確立の一助となること、教育効果や産後ケア能力を評価する産後ケアラダーの開発につながることで、教育を通して得られた知識や技術を踏まえ助産師の意図的な実践が積み重ねられること、これらにより産後うつ予防に寄与することが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------